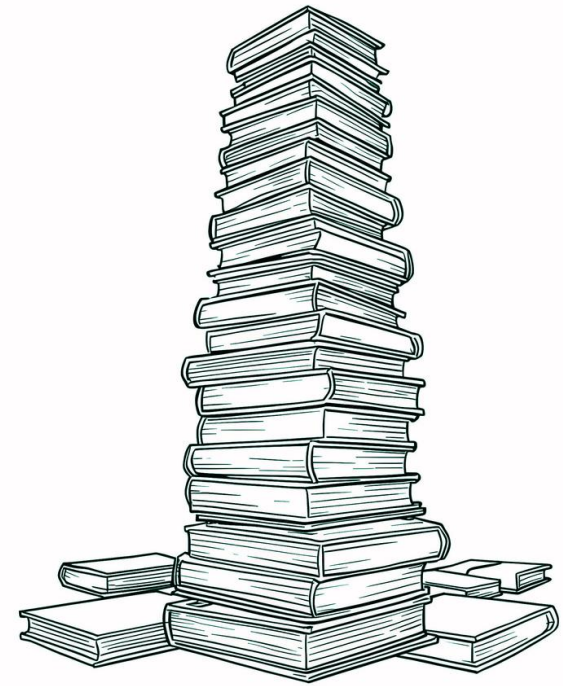


資料の管理

～蔵書構築ってどうやるの?～



安田女子大学附属図書館

森 友樹

目次

1. 本学図書館について

2. 蔵書構築のプロセスについて

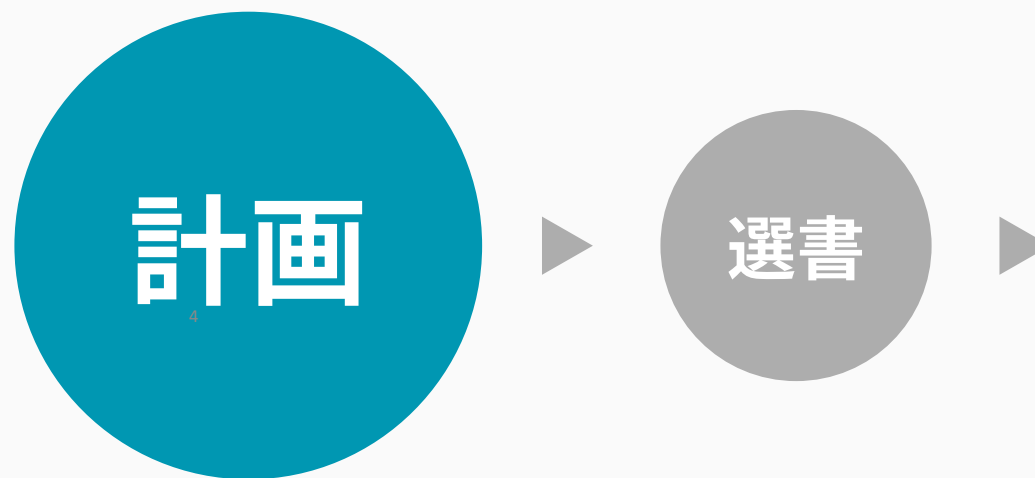


1. 本学図書館について



建 物	地上4階
奉仕対象	18学科 5,478名
蔵書冊数	約38万冊
電子書籍点数	約1万点
図書受入冊数	約3,461冊/年
図書除籍冊数	約1,602冊/年
所蔵雑誌種数	約4,700種類
受入雑誌種数	約1,200種類

2. 蔵書構築のプロセスについて





「収集方針」を読んだことは、
ありますか？

収集方針とは

- ①“図書館サービスの方法を資料の面で表現したもので、
- ②どのような蔵書（資料群）を構成するかの基本的な考え方を集約したものであり、
- ③日常の資料選択・収集業務に対する指針となるとともに、
- ④住民（利用者）の図書館資料への期待の拠りどころとなるもの” →公開し、意見や批判を歓迎する。

『図書館ハンドブック第6版』（2021）

• • • • •

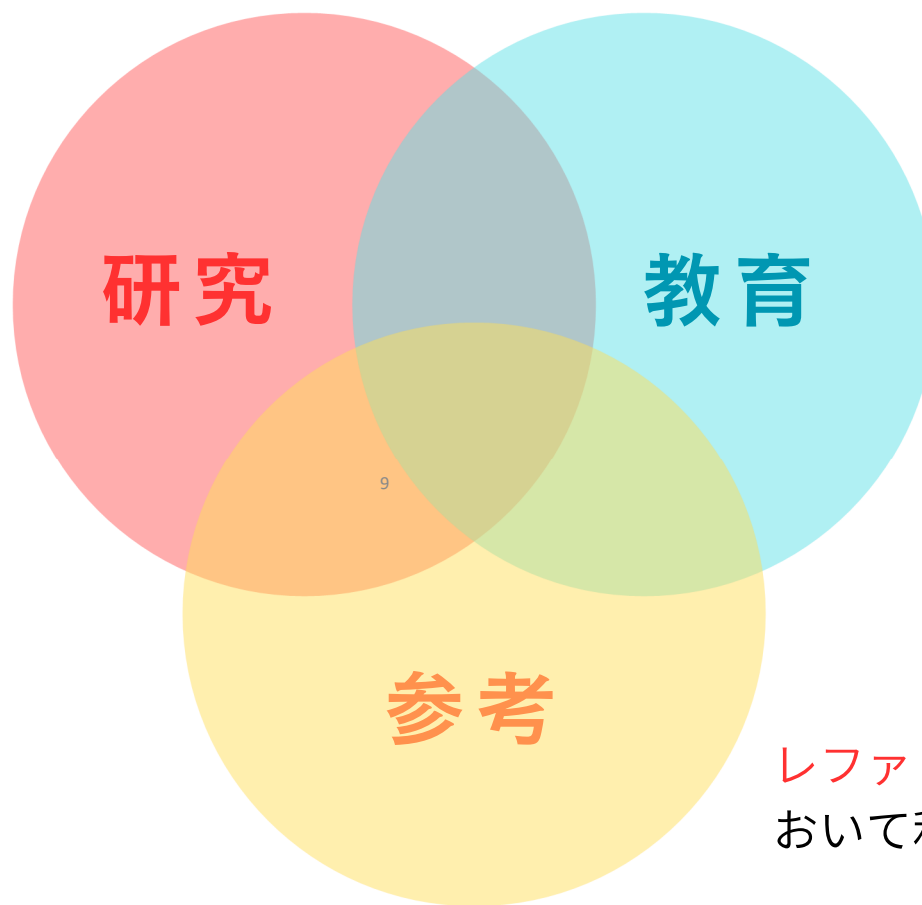
- 7

大学設置基準 第38条 第1項

大学は、**教育研究を促進するため、学部の種類、規模等に応じ、**
図書、学術雑誌、電磁的方法（電子情報処理組織を使用する方法そ
の他の情報通信の技術を利用する方法をいう。）により提供される
学術情報その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的
に整備し、学生、教員及び事務職員等へ提供するものとする。

収集する資料の3つの種類

教員及び大学院生の
研究活動を支援する
ための資料



学部生の授業や学修を
支援するための資料

学部生及び大学院生の
教養や生活の参考となる
資料

レファレンスサービスや調査活動に
おいて利用する資料

2. 蔵書構築のプロセスについて



選書(選択)基準とは

- ①“収集方針に基づいた、個々の資料を選定する際の掘り
どころとなる細則”
- ②“資料の対象や類型、それに分野ごとに、どの程度の密度
で、どのような資料を収集するかを明確にしたもの”

『図書館情報学用語辞典』(2019)



どのような資料を
電子書籍で収集しますか？

電子書籍に向いている資料

私見です。

◎向いている資料

- 禁帯出資料
←電子書籍であれば館外でも利用できる。
- 辞書、事典、ハンドブックなどの参考図書
←全文検索機能が活躍！
- 語学学習用資料
←隙間時間に利用しやすい。多読資料や読み上げ機能があるものも◎

- シラバス掲載資料などの授業関連資料
←閲覧型であれば、占有時間が短くオススメ。
シラバスにリンクを貼るのも◎。

- 実習等で参考になる資料
←看護実習や教育実習などで大学に來れない期間中でも、電子書籍であれば調べることができる。

△向いていない資料

- 長時間熟読する小説や文学作品
- 印刷やダウンロード不可の問題集

選書(選択)基準の例

- シラバス掲載資料 “シラバスの参考図書は、可能な限り収集する”
- 現代小説 “次の文学賞受賞作品は、継続的に収集する（芥川賞など）”
- 資格関連図書 “次の資格関連図書は、継続的に収集する（TOEICなど）”
- 参考図書 “利便性を考慮し、電子版を積極的に収集する”
- 映像資料 “原則として著作権¹⁴処理済みの資料を収集する”
- 雑誌 “タイトルの見直しを定期的に行う。”
- 非収集資料 “次の資料は、原則として収集しない（コミックなど）”

などなど

拡張型・抑制型

拡張型

「○に関連する資料について、幅広く収集を行う」

「○○の観点から、○○も収集対象とする」

抑制型

「○○は、……なので収集しない」

非収集資料は、
抑制型の表現。

いろいろな予算と選択者（本学の例）

研究

【学科研究用図書】

- ・各学科の研究に必要な資料
- ・各学科で選書

【電子的資料】

- ・教育研究に必要なデータベース等
- ・学科や教員が推薦

【新設学科等図書】

- ・新設学科等の教育研究に必要な資料
- ・対象学科で選書

【企画図書図書】

- ・教育研究に資する大型資料
- ・教員が推薦

教育

【教育用推薦図書】

- ・各学科の学生の学修に必要な資料
- ・各学科で選書

【購入希望図書】

- ・¹⁶利用者からの購入希望資料
- ・各利用者が申請

【学生選書キャンペーン】

- ・ブックハンティングので購入希望図書
- ・各参加者が申請

参考

【司書選定図書】

- ・大学図書館に必要な資料
- ・司書が選書

【バックナンバー補充】

- ・図書や雑誌のバックナンバー
- ・司書が選書

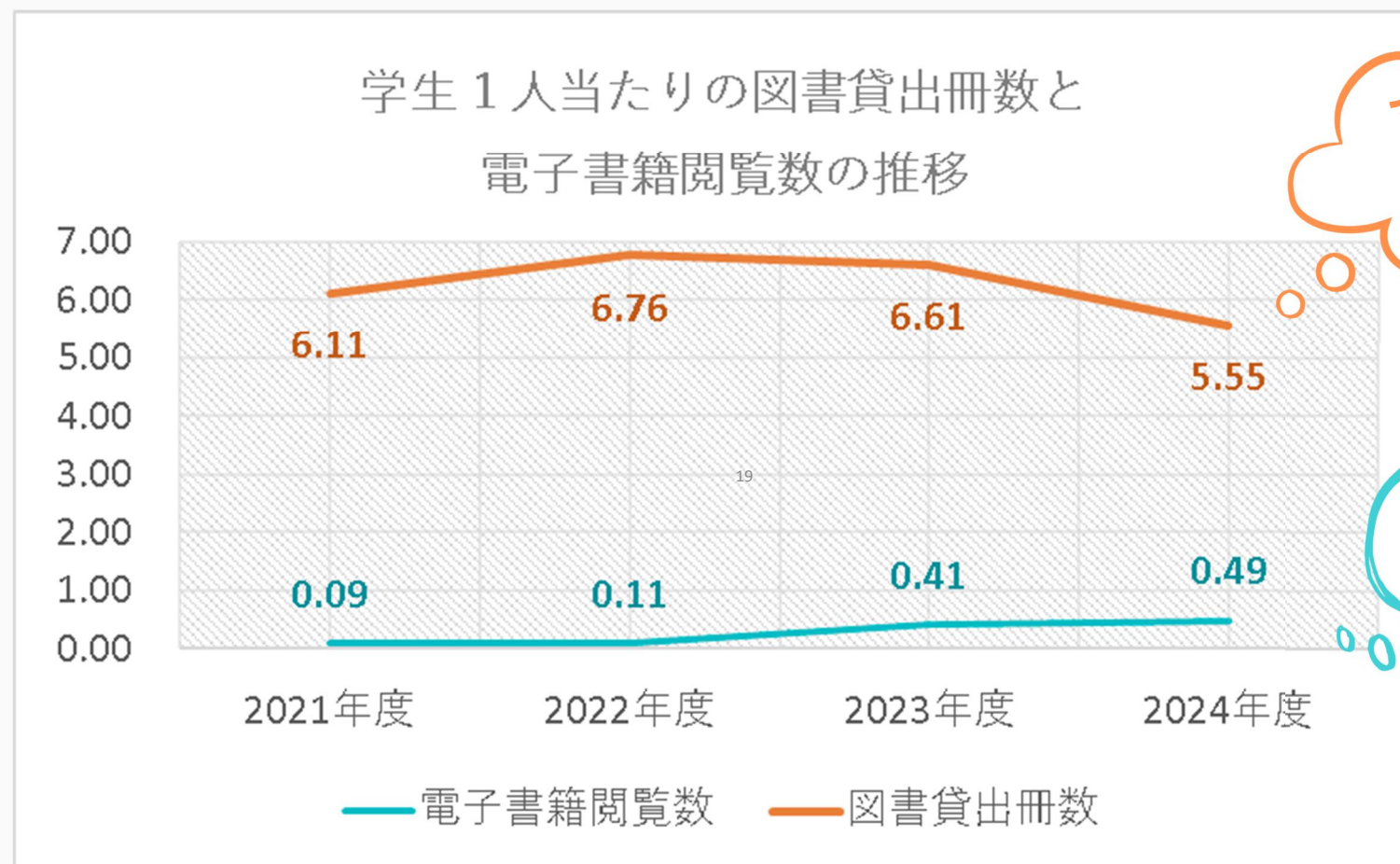
2. 蔵書構築のプロセスについて



学生1人当たりの貸出冊数は、
増えてきていますか？

減¹⁸ってきていますか？

学生1人当たりの貸出冊数は減ってきてるけど…



ぶち減ってる
じゃん…

どして
増えてん?

選書評価とは

- ①“蔵書が図書館の目的や役割をどの程度達成する力があるか、
- ②利用者の要求やニーズをどの程度満たしているか、
- ③蔵書のどのような領域に欠陥や問題があるか、
- ④資料購入費はどれくらい有効かなどを判断するために、
- ⑤蔵書の質や量を評価すること”

『図書館情報学用語辞典』(2019)

コレクション中心評価法・利用者中心評価法

コレクション中心評価法

規模、主題領域、利用、予算支出、その他の側面からコレクションを数量的に記述する。

利用者中心評価法

利用者が必要とする資料を図書館でみつけることができたか、それを実際に入手できたか、どのような要求が満たされなかったか、さらにはだれが図書館の利用者なのかを明らかにする。

『コレクションの形成と管理』(1993)

評価の目的と指標の例（コレクション中心評価法）

○蔵書の規模や概要

→蔵書冊数・種類数、年間受入冊数・種類数、年間除籍冊数、奉仕対象者数

○蔵書・受入・除籍の構成比率

→購入・寄贈別、予算別、資料形態別、主題分野別、学科関連別

○学生1人当たりの蔵書冊数

→蔵書密度(蔵書冊数÷学生数) ²²

○蔵書がどの程度更新されているか。

→蔵書新鮮度(年間受入冊数÷蔵書冊数)

○収集が漏れている資料がないか。

→チェックリスト法(受賞図書、シラバス掲載図書、継続図書) などなど

評価の目的と指標の例（利用者中心評価法）

- どのような資料がよく利用されているか。
 - 貸出冊数（利用者区分別、資料形態別、主題分野別）
- 学生1人当たりの貸出冊数
 - 貸出密度(学生全体の貸出延べ冊数÷学生数)
- 蔵書1冊当たりの貸出回数（資料形態別、主題分野別）
 - 蔵書回転率(利用者全体の貸出延べ冊数÷蔵書冊数)
- 利用がほとんどなく、除籍候補となる資料にはどんなものがあるか。
 - 一定期間に一度も貸出をされていない資料

などなど

2. 蔵書構築のプロセスについて



配架スペースは、
あと何年もちますか？



書架収容能力 : 413,767冊

現在の蔵書冊数 : 376,403冊

書架収容余力 : 37,364冊

平均受入冊数 : 7,569冊/年

平均除籍冊数 : 2,887冊/年

平均増加冊数 : 4,682冊/年

↑ 「本があふれる図書館の絵」 by Copilot

書架収容余力 37,364冊 ÷ 年間増加冊数 4,682冊 ÷ 受入可能年数 約8年

除籍とは

- ①“所在不明であったり、破損、汚損があったり、
あるいは不要となった資料を原簿から削除すること。
- ②除籍された資料に対しては、廃棄、寄贈、売却などの
処理がとられる。”

27

『図書館情報学用語辞典』(2019)

除架：開架図書から不要な資料を除くこと。

除籍：蔵書から不要な資料を除くこと。

『図書館情報資源概論 新訂版』(2018)

図書館員が除籍をためらう、あれや、これや。

蔵書は、多ければ
多いほどいいよね。

えっ。

その本、除籍するの!?

この本を除籍したら、
先生方から
苦情来ませんか？。

除籍とは、
28
大学の資産を捨てる
ということですよ！

書籍は、知の結晶。
捨てるなんて
とんでもない。

正直、どれを
除籍していいのか
分からん…。
。。

それでも、除籍は必要なんです。

○スペースの確保

新しい資料を配架する場所をつくるため。

○利用のしやすさ向上

古い資料に埋もれず、必要な資料を探しやすくするため。

○情報の正確性維持

誤った内容や古い情報を取り除き、信頼できる資料を提供するため。

○管理コストの軽減

不要な資料を減らし、保管や点検の負担を軽くするため。

除籍基準の例

- 所在不明の資料

- “にわたる蔵書点検にも関わらず、その所在が確認できない資料”

- 汚損・破損した資料

- “汚損若しくは破損が甚だしく、補修を行うことが不可能な資料”

- 資料的価値を失った資料

- “資料的価値を失い、保存の必要がない資料”

- 重複資料

- “重複して保存する必要がない複本資料”

- 亡失した資料

- “災害その他の事故により亡失した資料”

などなど



31

そして、「収集方針」も見直そう。

参考文献

- ・ 河井弘志ほか編（1983）『図書館選書4 蔵書構成と図書選択』日本図書館協会
- ・ 高山正也, 平野英俊監修（2017）『現代図書館情報学シリーズ 8
図書館情報資源概論』樹村房1
- ・ 日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編（2021）
『図書館ハンドブック 第6版補訂2版』 pp.209-218. 日本図書館協会
- ・ 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編（2019）『図書館情報学用語辞典』
丸善出版
- ・ 馬場俊明編著（2018）『図書館情報資源概論 新訂版
JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 8』日本図書館協会
- ・ 三浦逸雄, 根本彰著（1993）『コレクションの形成と管理
講座 図書館の理論と実際 第2巻』雄山閣出版



ご清聴ありがとうございました。